

成果の説明書

(氏名) 藤本 哲	(学部) 経済
<p>1 重要事項</p> <p>本年度は急遽、遠隔授業への対応を行うこととなった。アクティブ・ラーニングへの対応という大きな流れ・長期的な流れを意識し、対面授業に戻って以降も役立てられる実践にどんなものがあるのか、様々な取り組みについて、受講学生の協力のもと、実験的な取り組みを行なった。</p> <p>受講学生同士の意見交換を大規模に生み出すため、本学で利用できることとなった Microsoft Teams の電子掲示板機能を2つの授業（経営管理論，経営組織論）で活用した。アクティブ・ラーニングの観点からは、受講学生自身が問いを発することが重要である。担当教員が出した問いへ答えるという、従来型の授業形態から大きく踏み出し、担当教員はあえて問いを出さず、受講学生の自発性を引き出すことへの支援に集中した。とはいえ、受講学生の考えを促すためにも、毎週の課題を工夫した。実際のところを見ると、受講学生の発問の多くが、毎週の課題に関わるものであったので、この取り組みはかなり有効であったと思われる。</p> <p>毎週の課題を採点する作業について、生産性を向上させる工夫も行なった。特に、Microsoft Excel のワークシートを用いて課題を書くことと、そのワークシートの工夫を編み出した。前期の経営管理論では Microsoft Word と Teams を用いていたのだが、採点作業の煩雑さと能率の悪さを感じたため、後期の経営組織論では大きく変革した。毎週の課題は Microsoft Teams を使って、出題および提出・受付を行い、採点作業とフィードバックまで行われた。この統合環境を最大限に活かすとともに、生産性を高める工夫のため、Excel のワークシートを用いた。</p> <p>後期に実施された経営組織論では、教室での授業を望む声と、遠隔受講を望む声との両者の希望に応える授業形式とした。学期末に行なったアンケートにおいても、概ね両者から好評を得る結果となった。教室に来た学生の数は実際には少数であったことを書き添えておく。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>地域科学研究所の研究プロジェクトの報告書が次年度早々に出版予定であり、その原稿を執筆した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>学期末に行なったアンケートのデータ分析を行う。また、遠隔授業の大規模実施に伴って大きく注目された著作権への課題に対応し、教材のアップデートを行う。</p>	